

行政区・二二が知りたい

矢板市にある六十七の行政区。このコーナーでは、かわら版記者が注目した各行政区独自のとりくみや歴史などをご紹介いたします。

安沢行政区

安沢は、矢板市の南東部、内川に沿って開けた純農村地帯で、北西の角に高原山の雄大な姿を望むことができます。現在、戸数が百九十六世帯。下安沢・山根坪の行政区と合併して十一年目になります。渡辺正光総区長さんを訪ねお話を伺いました。

○伝統を受け継ぐ祭り

天王祭（八坂神社祭礼・七月）・夏祭り・ふるさと祭り（十月）・どんど焼き（一月十四日）と地域の伝統を受け継ぐ祭りが今も大事にされ、地域の方々の伝統を重んじ、きずなを大切にしている気持を物語っています。

■天王祭

神事が午後四時から行われ、子どもみこしと大人みこしが五時三十分から同時に出発。練り歩く順路は、昨年下回りならその次の年は上回りというように交代します。約四キロメートルの道を掛け声をかけてねり歩きます。なお、八坂神社

の由来は、素戔男尊（スサノヲノミコト）を祭っている京都の八坂神社が本社であることによります。

■夏祭り

昨年は三回目になる花火大会が安沢公民館で行われました。当日は夜店が出たり、安沢全体で色々な考えを出し合って、クイズ大会やお囃子会との交流などを行い花火大会を盛り上げています。

■ふるさと祭り

毎年十月の最後の日曜日に、湯泉神社で行われるふるさと祭りは、神事が午前九時から始まります。

当番制で行い、甘酒・餅つき・おでん・とん汁・ヨーヨー釣りといった住民のアイデアを出し合い、祭りの場を盛り上げて五穀豊穡を願います。なお、湯泉神社は那須氏と関係が深く、那須地方に多い神社です。安沢の湯泉神社は那須氏の勢力が、この地域にまでおよんだことを物語っているようです。



■どんど焼き

伝統行事のどんど焼きは、燃えた火にあたることで病気をしないといひ伝えられています。ミズギの枝に団子をつけて、どんど焼きの火で焼いて食べるという昔ながらの風習は、どんど焼きならではの雰囲気を感じさせています。そして各種団体のお骨折りによって出される甘酒・とん汁が、いっそうその場を盛りたてます。

■安沢の自慢

内川沿岸の豊かな土地から収穫できる米がうまいこと。それと人と人とのコミュニケーションが取れていて、自然豊かな環境の中で行事が行われることに区民が誇りを持っていることです。



区民の集うふるさと祭り

第一農場行政区

■第一農場の歴史

明治の元勳・山縣有朋が、高原山麓に位置する官有地を明治十七年四月に拝借し「山縣開墾社」という名前で開拓と移住者の募集を行い、明治十九年にはその土地が払い下げられ、山縣有朋の所有となり入植者も増加した。

その後、開拓した農地を開放、払い下げが行われ、昭和二十一年には、今まで山縣農場と称されていた集落を、農場のほぼ中心を流れる金精川を境に東を第一農場、西を第二農場と分離し行政区としての第一農場が誕生し現在に至っている。

■地域総ぐるみのイベント

年間行事の中でも最も力をいれているのが「ほたるの里づくり」

公民館が中心になって、老人会（福寿会）、育成会、山ゆりの会そして行政が分担して区内の道路、河川、



公民館周辺の草刈や清掃を行います。「ほたるの里づくり」

イベントは、地域総ぐるみの行事として「環境保全」「地域の融和と活性化」を柱に大人も子供も自然を愛し郷土を愛する心を育み、毎年ホタルが飛ぶように自然を守ることを目的として実施しています。



親子そろって清掃活動

午前の作業が終わった後に皆が楽しみにしている交歓会が催され、都合で作業に参加できなかった人も一緒にみんなで楽しむことができます。

このほかに四月には「金精さまのお祭」や十月には「箒根神社の秋祭り」を各

班が持ち回りで担当しています。

いずれの行事も前述の【共に苦勞し喜びを分かち合った】という第一農場の歴史的背景より、新しく移ってきた人も古くから住んでいる人も区別なく付き合う気持ち浸透し、住民同士のきずなが深まり毎回イベントには多くの人が参加します。

十数年前には数組の家族が、子供を自然の中で伸び伸びと勉強させたいと移って来られたり、定年後、自然の中で静かに生活したいと住まいを求めてこられた人が多いので、坂口幸雄区長は「自然大好き人間には住みやすいところですよ」と強調して話されました。

■広報活動も活発です

強い団結力、強いきずなを保つもう一つのツールが広報です。

行政区長が発行する「行政区便り」と公民館長が発行する「自治公民館からのお知らせ」があり、それぞれ年6〜8回発行し区民の家庭への連絡、報告を行っています。（MA）